

【あ】

- * アスファルトフェルト（あすふぁるとふえると）
強靱なルーフィング原紙に浸透用アスファルトを十分浸透させたもの。防水、防露性が高く屋根の下葺材に広く用いられている。
- * アスファルトルーフィング（あすふぁるとるーふいんぐ）
アスファルトフェルトの両面に被覆用アスファルトを塗布し、さらに鉱物質粉粒を塗布したもの。被覆用アスファルトにより防湿性、耐候性に優れ、屋根下葺材として広く用いられている。
- * 圧壊（あっかい）
圧力がかかり壊れること。
- * 厚型スレート（あつがたすれーと）
モルタルに石綿等を混ぜ、機械で圧縮して造った屋根葺材。
- * アンカーボルト（あんかーぼると）
コンクリートの基礎等に埋め込んだボルトで、主として土台または柱脚（ちゅうきゃく）を基礎に緊結するために用いられている。地震などで建物が動くのを防ぐ役目のボルト。

【い】

- * 板戸（いたど）
板張りの引戸または開き戸の総称。

【う】

- * 薄鉄板（うすてっばん）
薄い鉄板。亜鉛メッキを施して屋根葺材に用いられる。

【え】

- * A L C 版（えいえるしーばん）
A L C とは、Autoclaved Light-weight Concrete の略。軽量気泡コンクリートのパネル。軽量で断熱性、耐火性が優れており、主に鉄骨造の外壁等に用いられる。

* 衛生設備（えいせいせつび）

給水設備、排水設備及び通気設備の総称。本運用指針においては、水廻りの衛生設備としており、給水設備、排水設備を指す。

* 液状化（えきじょうか）

地震による地下水位の上昇等により、砂質土等で地盤が液体状に不安定になること。建築物は基礎ごと傾いたり沈んだりする。

【お】

* 応急危険度判定（おうきゅうきけんどはんてい）

震災を受けた建築物について、余震等による倒壊危険性および部材の落下の危険性等を判定し、その結果にもとづいて当該建築物の当面の使用の可否について判定することにより、二次的災害を防止することを目的として実施する判定。

* 大引（おおびき）

木造の1階床組（ゆかぐみ）において、根太（ねだ）を受ける10cmほどの角材。床の構造の一部で根太を支え、その目方を地面に伝える役割がある。通常90cm程の間隔で入れ、根太と直交するよう配置する。

* 汚損（おそん）

よごしそこなうこと。また、そのよごれやきず。

* 鬼瓦（おにがわら）

棟の両端に用いる鬼の面を象った瓦。また、鬼の面でないものも鬼瓦と呼ぶ。

* 母屋（おもや）

住家等が同じ敷地の中で別々の棟として配置されている場合、その中心的な建物。

【か】

* 開口部（かいこうぶ）

壁等の一部が開放された部分の総称。窓、出入口等。

* 階高（かいだか）

下階床高から上階床高までのこと。

* 鋸（かすがい）

二つの木材をつなぐコ字状の鉄材のこと。

* 壁式構造（かべしきこうぞう）

建築物の構造方式の一つで、柱や梁を主体とする構造に対し、壁体や床等の平面的な

構造体で構成する構造方式をいう。

* 框（かまち）

床の高さが変わるところで高いほうの床の端に渡す横木や、建具の四辺を固める部材。畳については畳縁をつけていない短い辺を框という。

* かまち戸（かまちど）

かまちとは建具の四周を固める部材をいう。かまち組で構成されるふすま、障子等の建具をいう。本運用指針においては、襖、障子と並びで示しており、これら以外のかまち組みで構成される建具を指す。

* ガラス屋根（がらすやね）

ガラスを屋根葺材とした屋根。

* 瓦棧（かわらざん）

棧瓦を引っ掛けるために屋根下地に瓦の葺足に揃えるような間隔で打つ横材。材料は一般に杉材、米ツガ材が用いられているが、アルミ製の棧木もある。

* がんぶり瓦（がんぶりがわら）

雁振瓦。棟瓦のこと。屋根の棟部分に用いる瓦。「冠瓦（かんむりがわら）」「伏間瓦（ふすまがわら）」とも呼ばれる。

【き】

* 基礎（きそ）

建築物を支え地盤に定着させる部分。軸組下部に設け、外周基礎はコンクリートの布基礎とし、主要な間仕切りの下や浴室などの水を使う部分の周囲にも用いる。不同沈下を生じないようにし、地震力、風圧力などの水平荷重に対しても安全な構造にする。また、建物の自重及び建物に加えられる外力を地盤に伝達する。

* 基礎梁（きそばり）

ラーメン構造の鉄筋コンクリート造の建築物の柱脚（ちゅうきゃく）の間を結ぶ梁。「繫梁（つなぎばり）」ともいう。

* 局部座屈（きょくぶざくつ）

柱等の細長い部材に圧縮力が加わり、その一部が曲って折れる現象。

* 局部破壊（きょくぶはかい）

部材のある部分にのみ破壊を起こす現象。

【く】

* 隅角部（ぐうかくぶ）

壁面が折れ曲がっている部分。内壁では室内に対して外に折れている出隅（ですみ）と、内に折れている入り隅（いりすみ）とがある。

* 躯体（くたい）

一般に建造物の建具、造作、仕上、設備等を除いた部分をいう。本運用指針においては、基礎躯体として用いており、基礎の仕上モルタルを除いた部分を指す。

* 管柱（くだばしら）

二階建以上の木造建築物の柱で、土台から軒（のき）まで1本の柱で通さず、途中で桁（けた）等で中断されているもの。一般に建物の隅等の要所には通し柱（とおしばしら）を使うが、その他は管柱（くだばしら）を用いる。

* クロス（くろす）

本来は、織布、布地をいう。本運用指針においては、壁や天井等に張る仕上を指す。壁クロス、天井クロスの材料には、紙、布、ビニール等がよく用いられる。

【け】

* 桁（けた）

建物の1階の天井と2階の床の間や小屋組のところの外周に入れる大型の部材。建物の柱の上に載る水平材で垂木（たるき）を受ける。

* 欠損（けっそん）

一部分が欠けてなくなること。

* けらば瓦（けらばがわら）

けらば（屋根の切妻となった端）部分に来る瓦。和型の場合、袖瓦や掛瓦、またS形では袖瓦などがある。

【こ】

* 高架水槽（こうかすいそう）

屋上等の建物上部に設置された水槽。

* 合成樹脂（ごうせいじゅし）

石油や石炭を原料とした人為的合成による樹脂状物。

* 構造用合板（こうぞうようごうはん）

筋かいのかわりに壁に打ち付け、地震や台風で建物が変形するのを防ぐ目的で使用さ

れる特に強度のある合板のこと。ツーバイフォー工法では床、壁、屋根に使用される。

* 合板（ごうはん）

薄い板を何枚か重ね接着剤で張り合わせて1枚の板としたもの。ベニヤ板ともいう。

* 高力ボルト（こうりょくぼると）

高張力鋼（鋼を熱処理し、強度を大きく改良したもの）でできた強度の大きいボルト。一般的には、ボルトを強く締め付けて、接合部材相互の摩擦力を利用した接合に用いられる。高張力ボルトともいう。

* 小舞（こまい）

木舞とも書く。壁の下地に作る壁心。小舞貫は強度を高めるために柱と柱の間に渡す板。小舞竹は柱と柱の間に編み込んで壁を作るためのもの。

* 小屋組（こやぐみ）

屋根を支える骨組みのこと。和小屋、洋小屋等が小屋組みの方法として多く使われている。和小屋とは日本に古来からある小屋組で、梁等の上に束を立てて組むものをいう。洋小屋とは洋風の小屋組で、トラスを形成して組むものをいう。屋根荷重は垂木、母屋（もや）を通して小屋組に伝えられるが、小屋組は屋根荷重を支えて柱へ伝え、軸組と一体となり外力に抵抗する。屋根は雨仕舞（雨水の浸入を防ぐこと）を良くするために勾配をつける。

* 小屋束（こやづか）

和小屋で母屋（もや）を支え、洋小屋ではトラス構造の垂直材のことを指す。

* コンクリートブロック（こんくリーとぶろっく）

コンクリートのブロック。コンクリートは、セメント・砂・砂利・水及び混和剤を適当な割合で調合し練り混ぜたもの。

【さ】

* サイディングボード（さいでいんぐぼーど）

外壁に貼る仕上板材の総称。木質系、石綿スレート板等がある。サイディングとは、板状外壁材の総称で、乾式工法（内外壁の仕上や下地にモルタルや土壁などの水を含んだ材料を使用せず、工場で生産された外壁材や合板などを現場で取り付ける工法。）の主要材料の一つ。セメントなどを主原料にしたもののほか、断熱材やハードボードなどを芯材に金属板で被覆したものなどがある。

* 在来工法（ざいらいこうほう）

柱と梁（はり）、桁（けた）、胴差（どうざし）等の横架材によって構成される軸組を主体とする工法。小屋組は、一般に和小屋である。近年は、壁に筋かいが入ることが

多い。「在来軸組工法」「軸組工法」ともいう。

* 座屈（ざくつ）

柱等の細長い部材に圧縮力を加えると、はらみ出すように曲って折れる現象のこと。「バックリング」ともいう。

* 座屈変形（ざくつへんけい）

座屈により元の形から変形している現象。

* 下げ振り（さげふり）

糸の先に錘をつけ、建物の垂直を調べたり、上下の点の位置をそろえたりするのに用いるもの。

* 雑壁（ざつかべ）

本運用指針においては、構造計画上主要でない壁や間仕切り壁を指す。

* サッシ（さっし）

本来は建具の組子の部材をいう。現在では工業製品の建具を意味する場合が多い。スチール製・アルミニウム製のものが多い。

* 棧瓦（さんがわら）

和型瓦や和瓦と呼ばれる日本独特の瓦で、左側に小さいうねりがあることがちょうど障子の棧に似ていることからこう呼ばれる。

【し】

* 軸組（じくぐみ）

柱と土台（どだい）、梁（はり）、桁（けた）、胴差（どうざし）等の横架材によって構成される骨組をいう。壁体の骨組でもあり、屋根、床の荷重を支え基礎に伝える。外周軸組は建物の棟に平行な両側面（平）の軸組と、これに直角な両側面（妻）がある。

* 仕口（しぐち）

柱と梁（はり）等の接合部分のこと。「しくち」ともいう。

* 下地（したじ）

仕上施工を行うその素地にあたる部分。

* 漆喰塗り（しっくいぬり）

左官工事の一種で、消石灰・貝灰・砂・水・顔料・すさ・のり（布のり・つのもた）等を調合して、下塗り・むら直し・かのこずり・中塗り・上塗りの順序に塗上げたもの。

* 受水槽（じゅすいそう）

給水設備のひとつで、タンクまたはポンプで揚水または圧送するために、水道管を導入して受水する水槽。

* 障子（しょうじ）

戸の一種で、木枠の中に格子状の細長い木をはめ込み、片側に和紙を張ったものをいう。

【す】

* 筋かい（すじかい）

地震力や風圧力などの水平荷重による軸組の変形を防ぐために対角線方向に入れる部材。建物全体を強固にする。「筋交い」「筋違い」「ブレース」ともいう。

* スパン（すぱん）

span。構造物を支持する支点間の距離。

* 隅棟（すみむね）

入母屋・寄棟での隅部分の棟。和型の場合は、紐丸瓦や紐伏間などで処理される。本瓦葺きの場合は、稚児棟と二の棟から構成され、先の部分が稚児棟で、その上部に来るのが二の棟である。

* スラブ（すらぶ）

slab。四周を梁などに支持された鉄筋コンクリート造の床。

* スレート（すれーと）

石質薄板。天然のものは粘板岩等があり、人工のものは石綿スレート等がある。屋根葺材料として用いられることが多い。

【せ】

* 石綿スレート（せきめんすれーと）

石綿とは蛇紋石（じゃもんせき）・角閃石（かくせんせき）等が繊維状になったもの。耐火性が良く熱の絶縁性が大きいため、断熱材やモルタルと混ぜ屋根葺材等に用いられる。「いしわた」「アスベスト」ともいう。石綿スレートとは石綿セメントの別名で、略して石綿板ともいう。石綿をセメントに混ぜ、水練りして板状に圧縮して水分を取り養生（ようじょう。できあがった部分を傷つけたり汚したりしないように保護すること。）したセメント製品をいう。

* 石膏（せっこう）

硫酸カルシウムのこと。石膏ボードは、焼石膏に軽量材を約 10% 混入し、両面に厚

紙を張って成板したもの。天井、壁等の下地、仕上に使用する。化粧石膏ボードは、厚紙に木目等の模様をつけ、仕上に用いられるものをいう。

- * 折損（せつそん）
おれて破損すること。

【そ】

- * 層間剥離（そうかんはくり）
合板等の上の層と下の層との間で剥離が起きる現象。
- * 損壊（そんかい）
住家が被災により損傷、劣化、傾斜等何らかの変化を生じることにより、補修しなければ元の機能を復元し得ない状況に至ったものをいう（災害の被害認定基準）。

【た】

- * 耐震壁（たいしんへき）
建築物の壁のうち、地震などの水平力に対して有効に働く壁のこと。一般には鉄筋コンクリートの壁体をいう。
- * 耐力壁（たいりょくへき）
鉛直荷重や水平荷重に抵抗する壁。鉄筋コンクリート造の耐力壁では、壁圧 12～21 cm 程度のものが多く、ふつう縦筋と横筋を格子状に単筋式又は複筋式として配筋する。
- * タイル（たいる）
耐火粘土、木節粘土、長石などを微粉碎し調合した原料を焼成したもの。
- * タイル張り（たいるばり）
内外装の壁や床にモルタル・接着剤などを用いてタイルを張ること。
- * 谷（たに）
屋根の平面がぶつかったところにできた窪みのこと。
- * 玉石（たまいし）
径が 10～30cm の丸形をした石の総称。主として礎石、積み石等に使われる。割られた角張りのあるものは割栗（わりぐり）、割栗石などという。
- * 垂木（たるき）
小屋組の一部で、屋根の板（野地板）のすぐ下に滴の流れる方向に入れる部材のこと。屋根仕上材や屋根下地を支えるために軒桁に架け渡す材。「ラフター」ともいう。
- * 断熱材（だんねつざい）

熱伝導率が小さく、熱絶縁を目的として用いられる材料。一般に多孔質材料が用いられる。ロックウール（岩綿）、グラスウール（硝子綿）、スタイロフォーム等の空気層を多く含んだ材料。

- * 断面欠損（だんめんけっそん）
柱や梁等の部材が、断面を露出して欠けること。

【ち】

- * 柱梁（ちゅうりょう）
はしらとはり。
- * 柱脚（ちゅうきやく）
柱の脚部。柱の上部に作用する力を基礎に伝えるための柱の脚元の構造をさす。
- * 蝶番（ちょうつがい）
扉や窓などの開閉の軸となる金物のこと。

【つ】

- * 2 × 4 工法（つーばいふぉーこうほう）
「枠組壁工法」ともいう。住宅の構造材に断面サイズ 2 × 4 インチの製材が最も多く使用されることでこう呼ばれ、次のような特徴がある。
 - ・ 強い壁、床、屋根を構成するので高い強度と気密性を持ち耐震性に優れている。
 - ・ 2 × 4 材で構造体を作り、構造用合板や石膏ボードで壁・床を構成する。木材が表面に表れないため耐火性が高く、枠組材で密閉された空間を作るため延焼しにくくなっている。
 - ・ 壁内に断熱材を取り付けることができるので断熱性にも優れている。
- * 束（つか）
横架材を支えるため垂直にはめ込まれる短い角材の総称。床組（ゆかぐみ）における床束・小屋組における小屋束等がある。
- * 束石（つかいし）
床束をたてるために据える石、コンクリート等。
- * 継手（つぎて）
部材を長さの方向に接合する接合部のこと。

【て】

- * デッキプレート（でっきぷれーと）
鉄骨造の床を構成する波状のプレート。この上に軽量コンクリートを打って床の下地にする。
- * 鉄筋コンクリート構造（てっきんこんくりーとこうぞう）
鉄筋は引張に、コンクリートは圧縮に抵抗するよう組み合わせ、両者の付着によって強度の高い構造体を作るもの。「RC構造」ともいう。
- * 鉄骨構造（てっこつこうぞう）
主要構造部に、普通の形鋼材を用いて組み立てた構造。「鋼構造」「S造」ともいう。
- * 鉄骨系プレハブ住宅（てっこつけいぷれはぶじゅうたく）
一般に軽量鉄骨を用いたプレハブ工法による住宅。重量鉄骨を用いたプレハブ工法もあり、本運用指針においては、これらを一括して鉄骨系プレハブ住宅としている。
- * 鉄骨鉄筋コンクリート構造（てっこつてっきんこんくりーとこうぞう）
主体構造を鉄筋コンクリートで建築する構造。「SRC造」ともいう。
- * 天端（てんば）
部材等の最上面あるいは上の端。「上端（うわば）」ともいう。

【と】

- * 胴差（どうざし）
木造の軸組（じくぐみ）において、通し柱（とおしばしら）では2階以上の床の位置で柱を相互に繋ぎ、管柱（くだばしら）では下階の柱の上端を相互に繋いでいる横架材。
- * 胴縁（どうぶち）
壁の仕上材を留めるための水平方向の下地材。
- * 通し柱（とおしばしら）
2階以上の木造建築物の階上と階下を通ずる1本材の柱のこと。一般に建物の隅等の要所には通し柱を使う。
- * 独立基礎（どくりつきそ）
1本の柱の下に単一に設けられた基礎。
- * 土台（どだい）
基礎の直上にすえた軸組みの最下部の水平材で、柱の下端を連絡し、上部の荷重を基

礎に分布するものをいう。

* 土間コンクリート（どまこんくりーと）

土間とは屋内で床板を張らず、地面のまま、あるいは三和土（たたき）にしてあるところをいう。土間コンクリートとは、土間に打ったコンクリートまたはその部分をいう。

* 巴瓦（ともえがわら）

丸瓦の先に巴がついた瓦。軒巴、棟巴、拝巴、半月巴などの種類がある。

* トラス（とらす）

三角形を基本に木材、鉄骨を組み立てる構造。部材のつなぎ目は添接板あるいはガセット、ガセットプレートというあて板をあて、リベットなどの鉋で固定する。

【な】

* 内部基礎（ないぶきそ）

本運用指針においては、布基礎外周の内側にある基礎を意味する。

* 波形鉄板（なみがたてっぱん）

素材が鉄製で波型の板。

【ぬ】

* 貫（ぬき）

和室の場合、壁を取り付けるために床と水平に入れる部材。

* 布石（ぬのいし）

布基礎（ぬのぎそ）の一種で、切石を連続して並べた基礎。

* 布基礎（ぬのぎそ）

壁下等に用いる壁の長さ方向に連続した基礎。縁の下にかかる力を地盤に伝え、上部からの力や地盤で不同沈下しないよう鉄筋で補強し、帯状の連続した構造となっている。土台の移動、浮き上がりを防ぐためにアンカーボルトを緊結する。布基礎の断面形状は上部からの荷重を分散するため逆T字型にして、底面を広くする。底面を広げた部分をフーチングという。

* 塗土（ぬりつち）

土壁において塗られた土。

【ね】

* 根太（ねだ）

木造の床組みにおいて、床板を受ける横木。床仕上の下地骨組で、大引（おおびき）等の上に 30～45cm ほどの間隔で渡される。根太の両端は土台又は根太掛にのせる。

* 根太掛（ねだがけ）

根太（ねだ）の端をささえうける横木。

【の】

* 軒桁（のきげた）

外周軸組で小屋梁、垂木を受けて屋根荷重を柱に伝えるもの。

* 軒高（のきだか）

軒の高さ。地盤面から小屋組またはこれに代わる横架材を支持する壁等の上端までの高さのこと。

* 野地板（のじいた）

屋根の仕上材である瓦等のすぐ下に入っていて仕上材を支える目的のもの。

* のし瓦（のしがわら）

熨斗瓦。棟積みに用いる平瓦で、厚熨斗、薄熨斗、紐熨斗などがある。割って使用するので、中心部に割り易いよう筋が入っている。屋根葺き材料。

【は】

* 剥落（はくらく）

剥離（はくり）し、分離したものが落下すること。

* 剥離（はくり）

接着層で破壊または分離する現象をいう。

* 柱（はしら）

床・屋根などの上部荷重を土台に伝える鉛直材で、二階建てでは1本の柱を用いる通し柱と各階に設ける管柱がある。柱の上部、下部は土台、軒桁、胴差に差し込む。

* 破損（はそん）

やぶれ損ずること。こわれること。

* 破断（はだん）

部材に外力が作用し切断される現象。

* 鼻隠し（はなかくし）

垂木の先端を横につなぐ部材で、垂木の端を隠すことからこう呼ばれる。

* パネル（ばねる）

下地なしで平面が保てる程度の丈夫さを持った板。大きさが 90cm～180cm 程度以上のものが多い。壁、床等に用いられる。

* パネル工法（ばねるこうほう）

床、壁、天井をパネルとしてあらかじめ工場で製造し、現場で組み合わせて建築する工法。木質系、鉄骨系、コンクリート系がある。

* 破風板（はふいた）

屋根の妻側に山形に取り付けられた板。建築物への雨の吹き込みを防ぐ。

* はらみ出し（はらみだし）

面が押し出されてふくれること。

* 梁（はり）

柱の上に位置する水平材で小屋組みを支えるもの。垂木を受けるものは特に桁(けた)という。

* バルコニー（ばるこにー）

家屋に沿って外部に張り出した縁側。「ベランダ」ともいう。

* ハンチ（はんち）

hanch。梁や床スラブの端部の断面を中央部の断面より大きくしたもの。せいを増したものを垂直ハンチ、幅を大きくしたものを水平ハンチという。

【ひ】

* ビード（びーど）

サッシのガラスを固定するために溝に挿入する合成樹脂のクッション材。

* 火打土台（ひうちどだい）

土台の隅のところに入れ、地震等で建物が変形するのを防ぐ部材。

* 火打梁（ひうちばり）

2階の床下の梁や胴差の隅のところ斜めに入れ、地震等による建物の変形を防ぐ部材。

* 被災度区分判定（ひさいどくぶんはんてい）

震災を受けた建築物について、適切かつ速やかに復旧することを目的に、損傷の程度

及び状況を調査する判定。

【ふ】

* フーチング（ふーちんぐ）

footing。基礎の下のふくらみ部分。建物の目方を広く散らすために用いる。

* 吹き付け（ふきつけ）

高圧の空気を利用し塗料を霧の状態にして均一な塗膜を機械的に吹き付けること。

* 不同沈下（ふどうちんか）

地盤が基礎を一樣に支えられず、建築物の基礎が場所によって異なった沈下をする状態。建物が傾斜したり、ひび割れが発生する。

* 不陸（ふりく）

水平でないこと、あるいは平面が凸凹していること。「ふるく」ともいう。

* ブレース（ぶれーす）

筋かい。地震や風等の外力に対し、建物の骨組みを強化するために入れる斜め材。本運用指針においては、木造・プレハブについては「筋かい」を用い、非木造について「ブレース」を用いている。

* プレハブ（ぶれはぶ）

プレファブリケーションの略で、現場で組立てる前にあらかじめ作っておくことをいう。工場で部材の加工、組立てを行い、現場で所定の場所に取り付けること。また、プレハブ工法とは、プレハブによる工法をいう。

* フローリング（ふるーりんぐ）

本来、床を張ること、又は床仕上を張った床や床仕上の総称をいう。一般には床仕上用板材をいうことが多い。本運用指針においては、床仕上用板材を指す。

【へ】

* ベタ基礎（べたぎそ）

建物の下部を全部基礎にすること。特に地盤の悪い場合に用いられる。

【ほ】

* 防水材（ぼうすいざい）

防水を目的として、透水性のまったくない、あるいはほとんどない材料。主なものにアスファルト防水材、セメントモルタル防水材、シート防水材等がある。

* 膨張（ぼうちょう）

理化学的原因によって物体の体積が増大すること（熱膨張等）や多孔質材料が吸湿によって体積が増大することをいう。木材等の材料は吸湿により膨張を起こす。本運用指針においては、後者を意図している。

* ボード（ぼーど）

特に加工して強化した板。本運用指針においては、合板（木質ボード）と並びで示しており、合板（ごうはん）以外の石綿スレート板、プラスチック製等のボードをいう。

【ま】

* 間柱（まばしら）

柱と柱の間におよそ 45 cm 間隔で入れて壁を取り付けるのに用いる部材。

* 丸瓦（まるがわら）

棟の最上部に載せられる瓦。棟瓦の種類の一つ。胴と玉縁（たまぶち）で構成される。

【み】

* 見附面積（みつけめんせき）

見附とは、一般に建物の各部や建具・家具等の正面またはその幅寸法をいう。本運用指針においては、建物の正面（面積）を指し、第 1 編（地震等による被害）非木造において、梁の損傷率を算定する際等に、「住家全周の見附面積」という表現でその考え方を適用している。梁の被害は、建物全体で面的に広がるのが想定されるため、外観目視調査による第 2 次判定では、原則として、住家全周の見附面積に対する損傷梁を含む部分の面積比を算出して住家全体の梁の損傷率を推定する。ただし、集合住宅等において 1 階部分がピロティとなっている等、住家の特定の階の梁の被害が全体的に確認できる場合は、住家の水平投影面積に対する損傷梁を含む部分の面積比を求めて梁の損傷率を算定しても差し支えない。第 3 次判定においても、原則として、第 2 次判定と同様の方法で、住家全体の梁の損傷率を算定するが、内部立入調査により住家内部の梁の被害状況も十分に考慮するものとする。

【む】

* 無筋コンクリート（むきんこんくりーと）

鉄筋等で補強しないコンクリート。土間コンクリート等に用いられることがある。

* 棟瓦（むねがわら）

棟の最上部に載せられる瓦。「伏間（ふすま）瓦」「雁振（がんぶり）瓦」「冠（かんむり）瓦」などとも呼ばれる。

【め】

* 目地 (めじ)

ボード、タイル、石、れんが、コンクリートブロック等の貼り付けや組積において、部材の接合部に生じる継ぎ目。

* 目地切れ (めじきれ)

目地に隙間が生じること。

【も】

* 木質系プレハブ住宅 (もくしつけいふれはぶじゅうたく)

木質系のパネルを用いたプレハブ住宅。

* 母屋 (もや)

屋根の内部で、垂木の下になり束へ荷重を伝える水平部材。

* 盛土 (もりど)

新たに土盛りされた地面のこと。

* モルタル (もるたる)

mortar。一般にセメント、砂、水を練り混ぜたセメントモルタルをいう。レンガやコンクリートブロックの目地を埋めて接着層としたり、床、壁の上塗りに用いる。施工しやすく、防火性能があるので一般によく用いられている。

* モルタル塗り (もるたるぬり)

左官工事の一種で、モルタルを塗ること、または塗ったもの。

【ゆ】

* 床組 (ゆかぐみ)

床の構造 (組手) のこと。すなわち、根太 (ねだ)、大引 (おおびき)、束 (つか) 等の組み方をいう。

【よ】

* 洋小屋 (ようごや)

部材を三角形の骨組み (トラス) に組み立て、外力に対して各部材が一体となって働く構造で、真束小屋組、対束小屋組等がある。

【ら】

* ラーメン構造（らーめんこうぞう）

柱・梁の各節点が剛（ごう）に接合されて一体となっている骨組み。ラーメンとはドイツ語で「枠」の意味。

* ラス（らす）

モルタルを付着させるために用いる金属でできた網状のもの。塗壁、塗天井用の下地材に使用される。ワイヤラス（針金を編んで作った金網）やメタルラス（金属板に傷をつけて引き伸ばしたもの）がある。

* ラスモルタル（らすもるたる）

ワイヤラスやメタルラスを下地としたモルタル仕上のこと。

【り】

* リシン（りしん）

顔料や種石を混ぜて練り、壁などに塗る材料のこと。

* リシン掻き落とし（りしんかきおとし）

リシンを鏝（こて）等で塗った後、剣山のようなもので掻き落とした仕上のこと。

* リシン吹き付け（りしんふきつけ）

リシンを液体に混ぜ、スプレー等で吹き付ける仕上のこと。

* リノリウム（りのりうむ）

乾性油を酸化して得られるコロイド状の物質リノキシンにロジン等の樹脂類、コルク粉及び着色剤等を混入して布に圧着したもの。床仕上材に用いられる。

【わ】

* 枠組壁工法（わくぐみかべこうほう）

枠材に合板（ごうはん）を釘打ちしたパネルで、壁や床を構成する工法。小屋組は、一般に洋小屋（トラス）である。この工法の代表例として、2 × 4 インチの断面の木材を用いるツーバイフォーがある。

* 和小屋（わごや）

小屋梁などに小屋束を立て屋根荷重を支える構造で、束立て小屋ともいう。

* 割り裂け（わりさけ）

木材が繊維方向に割れること。「割裂（かつれつ）」ともいう。